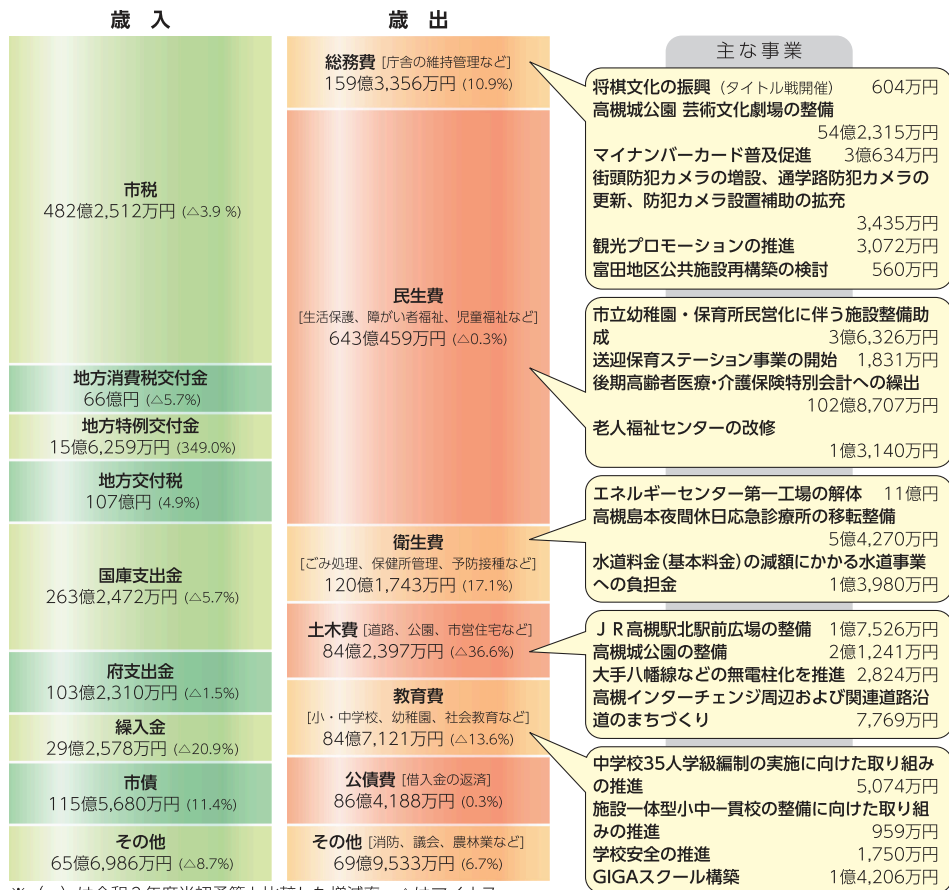


01 令和3年度 当初予算決まる

一般会計 1,247億8,797万円

問合せ 財務管理室 ☎674・7352

一般会計(総額1,247億8,797万円)の内訳



※ () は令和2年度当初予算と比較した増減率、△はマイナス



※表示単位未満は四捨五入をしています



高槻城公園 芸術文化劇場(イメージ)

一般会計は対前年度比2.0%減

令和3年第一回市議会定例会で、令和3年度当初予算が可決されました。一般会計は1,247億8,797万円、前年度当初予算より2.0%減少し、特別会計や企業会計を合わせた総額は、2,352億7,216万円、前年度当初予算より0.9%の減少となっています。

歳入
市民税が減
地方交付税が増
歳入では、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、市税の大幅な減少が見込まれ、個人市民税で前年度当初予算と比較して1.3%減、法人市民税で32.3%減、固定資産税で3.9%減、市税全体で3.9%減の19億4,891万円の減少を見込んでいます。

また、税収の大幅な減少が見込まれることから、安定的な行政サービスの提供のため国から各地方自治体に交付される地方交付税が増額となり、臨時財政対策債を加えた実質的な額は、前年度より26億円増の177億円を見込んでいます。

歳出
土木費で減
衛生費・総務費で増
歳出では、令和3年3月に全面開園を迎えた安満遺跡公園や関連道路の整備など大規模事業が完了したことで、土木費が48億6,603万円の減額となっています。

衛生費は、新型コロナウイルスの対応や高槻島本夜間休日応急診療所の移転整備などに伴い、17億5,920万円の増額、総務費は、高槻城公園芸術文化劇場の整備などで15億6,333万円の増額となっています。

「みらい創生」の観点に立ち予算編成
市は今後、生産年齢人口の減少や高齢化の進展などにより、厳しい財政運営が想定されています。今年度の予算編成では、新型コロナ対策のほか、限られた財源を効果的に活用するよう工夫を図り、施設一体型小中一貫校の検討など将来を見据えた事業にも予算を配分しました。一方、歳入面では、ネーミングライツ制度の活用などの財源確保に努めるとともに、業務においては、職員の生産性向上を図るなど、引き続き、未来志向の改革を推進します。

令和3年度当初予算		
会計別	予算額	増減率(%)
一般会計	1,247億8,797万円	△2.0
特別会計	1,104億8,419万円	0.5
特別会計の内訳		
公園墓地特別会計	1億 581万円	△59.1
駐車場特別会計	14億7,877万円	43.1
国民健康保険特別会計	370億9,703万円	0.6
介護保険特別会計	308億4,608万円	△3.9
後期高齢者医療特別会計	66億1,365万円	2.0
母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計	9,398万円	14.3
財産区会計	48億 342万円	△2.5
下水道等事業会計	142億9,124万円	△4.2
自動車運送事業会計	45億6,670万円	1.1
水道事業会計	105億8,752万円	21.4
合計	2,352億7,216万円	△0.9

※表示単位未満は四捨五入
※増減率は令和2年度当初予算と比較、△はマイナス